

北海道医療大学

教育	理念	<p>本学の建学の理念「知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成」に基づき、教育理念を以下のように定める。</p> <p>生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を養成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。</p>
	目的	<p>北海道医療大学の教育理念に沿って、幅広く深い教養に基づく豊かな人間性と高度で正確な専門知識・技術を有し、保健・医療・福祉を中心とする多様な分野と連携・協調して行動し、地域社会や国際社会で活躍できる専門職業人の養成を本学の教育目的とする。</p>
	目標	<p>北海道医療大学の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。</p> <p>1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養 3. 自主性・創造性および協調性の確立 2. 確かな専門の知識および技術の修得 4. 地域社会ならびに国際社会への貢献</p>
本学の行動指針	<p>— 21世紀の新しい健康科学の構築 —</p> <p>本学に対する社会の要請と期待に応えるため、社会と共生・協働する自由で開かれた大学を志向し、常に組織としての自律性・透明性を高めながら、構成員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することを、本学の行動指針とする。</p> <p>なお、北海道医療大学の教育理念・教育目的・教育目標に沿って、各学部学科の教育理念・教育目的・教育目標が定められています。</p>	

北海道医療大学心理科学部臨床心理学科

教育	理念	<p>本学の教育理念を基本として、現代科学技術の成果を認識し、心にかかわる自然科学と人文社会科学の連携による健康科学教育を推進する。生命の価値に対する倫理観を涵養し、心の障害を真摯に受け止める知性と感性を備えた人材を養成し、人類の幸福に貢献することを心理科学部臨床心理学科の教育理念とする。</p>
	目的	<p>心理科学部臨床心理学科の教育理念に沿って、心にかかわる自然科学と人文社会科学が連携した教育を通して、生命の価値に対する真摯な倫理観を涵養し、心の障害を一生の出来事として受け止める知性と感性を備えた公認心理師等の心理学に関する専門的知識を修得した人材の養成を本学科の教育目的とする。</p>
	目標	<p>心理科学部臨床心理学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。</p> <p>1. 心にかかわる社会的課題に対応する幅広い教養を身につける。 2. 心の障害に対処する心理専門職としての知識・技術を修得する。 3. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて専門性を検証し、自己研鑽できる能力を育成する。 4. 生命の尊厳に対する専門性のかかわりを常に意識できる感性を育成する。 5. 地域的・国際的に貢献しうる学識と行動力を涵養する。</p>

北海道医療大学三方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【大学】

北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。

【心理科学部】

心理科学部臨床心理学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 心身の健康を保持し学修を継続できる基本的態度と知識・技能を身につけている。
2. 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけている。
3. 心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得している。
4. 公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。
5. 対人支援における多職種連携の重要性を認識している。
6. 情報科学に関する知見を持ち、数理・データサイエンスの活用ができる。
7. 社会の変化を見通し、自己のキャリアを構築する力を修得している。
8. 生命の尊重と個人の尊厳を実現する法と倫理に関する理念を有し社会的に実践する力を有している。
9. SDGsの視点を取り入れ、多様性や包摂性に関する理解を踏まえた社会的貢献をする力を有している。
10. 地域連携や外国語の学修を活かして地域の暮らしや支援に関する深い理解と異文化を理解し尊重する国際性を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）

【大学】

北海道医療大学は、教育理念にある「保健と医療と福祉の連携・統合」を基本として、確かな知識と技術、深い教養と豊かな人間性を持ち、広く社会に貢献できる専門職業人の養成に向けた教育課程を編成します。すなわち、幅広く深い教養と豊かな人間性・自立性・創造性・協調性の修得をめざす「全学教育科目」、および確かな専門知識と技術の修得をめざす各学部・学科の「専門教育科目」を適切に組合せた学士課程教育を提供します。

【心理科学部】

心理科学部臨床心理学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 心身の健康を保持し学修を継続できる基本的態度と知識・技能を身につけるために、1年次に導入科目及び健康・運動科目を配当する。これらの科目では、講義に加えてグループワークを取り入れ、主体的な学習習慣の形成を促す。
2. 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけるために、1年次及び2年次に教養科目を配当する。講義に加えてグループワークを取り入れ、多様な学問分野の知見に触れるとともに、多角的な視点を養う。
3. 心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得するために、1年次から3年次にかけて心理学基礎科目、心理学発展科目、実践心理学科目を体系的に配当す

入学者受入れの方針 （アドミッション・ポリシー）

【大学】

北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、豊かな人間性や協調性・創造性等に加えて、保健と医療と福祉に関して各学部学科の高度な研究に裏打ちされた専門性の高い教育を行います。本学卒業には各学部学科の「学位授与の方針」の要件を満たすこと、すなわち、全学共通基盤の知識・技術・態度が必要となるばかりではなく高度な専門性の修得が要求されます。そのため、各学部学科では学位授与の方針の要件をより効果的に達成しうる資質を持った人材の受入れについて「入学者受入れの方針」として定めています。

【心理科学部】

心理科学部臨床心理学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる心理専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
2. 心の問題に関心を持ち、他者を援助することに意欲

- る。講義による知識の修得に加え、心理学実験や調査、査定に関する演習を通して、科学的思考力と実践的技術を段階的に育成する。
4. 公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得するために、2年次から医療系科目を、1年次から4年次まで公認心理師対応科目を段階的に配当する。講義、演習、実習を組み合わせ、国家資格取得に必要な知識と技能の修得を図る。
 5. 対人支援における多職種連携の重要性を認識するために、1年次及び4年次に多職種連携に関する科目を、1年次及び2年次にコミュニケーション科目を配当する。講義に加え、ロールプレイングや集団討論、事例検討といった演習を積極的に取り入れ、チームにおける協働力と実践的な対話能力を養う。
 6. 情報科学に関する知見を持ち、数理・データサイエンスの活用ができるために、1年次に情報科学科目、2年次に医療 DX 科目を配当する。講義と PC 演習を通じて、心理学研究や臨床実践におけるデータ分析・活用能力の基礎を固める。
 7. 社会の変化を見通し、自己のキャリアを構築する力を修得するために、2年次及び3年次に進路支援科目及び産業心理学科目を配当する。講義、グループワーク、各分野の専門家による講演を通じて、自己のキャリアデザインを描く力を育成する。
 8. 生命の尊重と個人の尊厳を実現する法と倫理に関する理念を有し社会的に実践する力を形成するために、1年次に医療倫理に関する科目及び公認心理師の職責に関する科目を配当する。講義と事例検討を通じて、専門職としての高い倫理観を涵養する。
 9. SDGs の視点を取り入れ、多様性や包摂性に関する理解を踏まえた社会的貢献をする力を有するために、1年次から4年次まで、各専門科目において関連するテーマを取り扱う。講義やディスカッションを通じて、現代社会の課題に対する認識を深め、心理専門職としての社会的責任感を養う。
 10. 地域連携や外国語の学修を活かして地域の暮らしや支援に関する深い理解と異文化を理解し尊重する国際性を身につけるために、1年次及び2年次に地域連携に関する科目及び外国語科目を配当する。講義に加え、フィールドワークや海外の文献講読、発表の機会を設け、実践的な語学力と多文化共生への態度を養う。
 11. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、レポート、実技試験（OSCE を含む）、プレゼンテーションなどを多面的に実施する。評価の客観性と公平性を担保するため、ルーブリック（評価基準）を積極的に活用し、学生に事前に明示する。加えて、学修ポートフォリオの活用により学生自身の振り返りを促すとともに、外部試験の結果も参照し、総合的に到達度を判定する。
 12. 教育課程の質を保証し継続的に改善するため、FD 及び SD 活動を継続的に実施し、教職員の教育能力向上を図る。加えて、カリキュラム・マップを用いた教育課程の体系性の検証、学生による授業評価、卒業生や就職先への調査に基づく定期的な自己点検・評価を実施する。これらの結果と、社会の要請や公認心理師養成にかかる最新の動

を持っている人

3. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人
4. 生涯にわたって学び、それを継続する意思を有している人
5. 心理学の専門家として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人

*基礎学力について

高等学校等で英語、国語等の履修により修得した基礎的知識に加えて、それらを活用し、自ら発展させていく意欲等を含むものをさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

向を踏まえ、教育課程を組織的に見直し、継続的な改善（PDCA サ
イクル）を行う。